

令和3年度 自己評価計画書

石川県立小松瀬領特別支援学校

重点目標	具体的な取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1 授業実践力の向上	① 【自立活動の充実】 自立活動の指導において、外部専門家の指導助言や先行事例、文献などから学び、指導の課題改善を行う。【継続】	教務課 自立活動推進委員会	昨年度の取り組みでは、殆どの児童生徒の目標が達成されているが、より目標設定の具体性や、指導方法の専門性などを高めることにより、更に効果的な指導への改善を継続的に図ることが望まれる。	【努力指標】 具体的な目標の達成に向けた指導などにおいて、外部専門家などからの見知りを得て、効果的な工夫、改善を行う。	自立活動の指導において、専門的見知りから、効果的な指導の課題改善を行ったと考える教職員の割合が A 90%以上 B 75%以上 C 60%以上 D 60%未満	【B以上で達成】 中間評価で未達成の場合は、原因等を分析し、教務課を中心に対策等を検討する。	教職員の自己評価 9月、1月
	② a 【「個別の指導計画」の充実】 児童生徒個々の目標、評価、指導の経過などについて、具体的な根拠等に基づいて担任と保護者との共通理解を推進する。	教務課	「個別の指導計画」における目標やその設定理由、支援方法、評価について、教職員と保護者の共通理解を図っている。今後は、的確な実態把握、具体的な目標、根拠のある評価など、より客観的で具体的な成果の共有が望まれる。	【努力指標】 実態把握から具体的な目標設定を行い、指導による変容等を根拠に基づいて表記する。	児童生徒個々の目標、変容、根拠に基づく評価等について、より具体的に表記したと考える教職員の割合が A 90%以上 B 75%以上 C 60%以上 D 60%未満	【B以上で達成】 中間評価で未達成の場合は、担任を中心に対策等を検討する。	教職員の自己評価 9月、1月
	② b			【満足度指標】 目標設定、学期ごとの伸び等の変容について、担任等から説明を受け、理解している。	担任等の説明により、目標、変容、評価等について具体的に理解した保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	【B以上で達成】 中間評価で未達成の場合は、担任を中心に対策等を検討する。	保護者アンケート 9月、1月
	③ 【研究授業の充実】 児童生徒個々の具体的な目標達成に向けて授業実践し、個々の発達の段階や道筋に即した、教科的な見方・考え方を中心に重点をおいた授業実践力を高める。	研究推進委員会 全学部	学校研究テーマに即して、集団活動において児童生徒の実態差に応じ、教科的な見方・考え方を大切にした指導を行う。また、児童生徒個々の変容や目標達成を具体的に教職員間で共有する。	【努力目標】 明確な視点をもって、研究授業参観及び整理会に参加し、意見交換する。	教科的な見方・考え方を中心に重点をおいた授業実践力の向上がみられたと考える教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	【B以上で達成】 中間評価で未達成の場合は、各部で対策等を検討する。	教職員の自己評価 9月、1月
2 安全・安心活き活きした学校づくり	④ 【専門性の発信】 学習指導要領の理念に基づき、時代に即した教育実践により、本校としての特色ある専門性を発信する。	総務課 各委員会	ICTの積極的な活用、スイッチ等を工夫した教材づくり等を推進し、また研修会を実施するなどして、肢体不自由教育校として専門性の発信をより進めようが望まれる。	【努力指標】 児童生徒の特性に合わせ、デジタル教材、スイッチ教材などを活用したり、研修会を行ったりする。	デジタル、スイッチ教材などを効果的に活用した、また特色ある教材などを発信した教職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【B以上で達成】 中間評価で未達成の場合は、総務課を中心に対策等を検討する。	教職員の自己評価 9月、1月
	⑤ a 【災害対策】 災害発生時の自己の役割や動きを、訓練やマニュアル精査などにより、各自理解し、必要に応じて改善する	指導課 総務課 PTA	万一の災害発生時、安全確保して適切な対応ができるよう、自己の役割や動きを熟知しておくことは重要である。教職員と保護者が協力し、共同の訓練などを通して、災害発生時の対応について共通理解する必要がある。訓練などにより明らかとなった課題を協議することなどにより、普段の危機管理意識の向上にもつながる。	【努力指標】 各種マニュアル(学校管理計画等)の確認、避難訓練等を通して、自己の役割を的確に努める。	災害発生時の自己の役割をよく理解し、円滑に行動することができたと考える教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	【B以上で達成】 中間評価で未達成の場合は、各課・各部で対策等を検討する。	教職員の自己評価 9月、1月
	⑤ b			【努力指標】 災害備蓄品の確認、避難訓練等により、災害対策について理解を深める。	災害発生時の対応について、理解が進んだ保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	【B以上で達成】 中間評価で未達成の場合は、PTAと対策等を検討する。	保護者アンケート 9月、1月
	⑥ 【業務の効率化と平準化】 各課・各自が担当業務を見直し、効率化について実効性のある具体的な取組を行う。【継続】	教頭	各教職員は並行して幾つもの業務を担当している。各課・各部は業務改善のあり方を見直し、業務の平準化を進めるとともに、各教職員は効率化等への課題解決への継続的な取り組みが必要である。	【成果指標】 個々の業務効率化等を工夫して、実効性ある具体的な取組を行つ。	各教職員が効率化等への具体的な取組を行い、効率化が図られたと考える教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	【B以上で達成】 中間評価で未達成の場合は、運営委員会及び各自で、体制や取組等を検討する。	教職員の自己評価 9月、1月 9月に工夫調査を実施し、教職員で共有